



食と文化を考える

当別のまちは古くから農業を基幹産業として発展してきました。先人の努力、暮らしの知恵が「食文化」として地域に根付いています。

苦労や思い出、未来に受け継いで行きたいと思うことを町で永い間活躍してきた5名の皆さんに泉亭町長との座談会を通じてお伺いしました。

泉亭町長

「食」に関わる日本伝統の文化は数多くありますが、最近は失われつつあります。

本日は皆様に関わる分野での「食」に対する思いや取り組みをお聞かせいただきたいと思います。

永い間米や花を作って来た三浦さんの思い出とは何ですか。

三浦さん

戦時中に食糧確保のため、強権発動で自分の食べる分まで強制的に出荷させられました。そんな悔しさから米作りの挑戦がはじまりました。

都会で働いたこともあります、水田にいる方が気持ちが落ち着きました。当時は食糧不足で、収量を上げることが一番の目標でしたね、その後は米余り時代が来て、消費者も味を求めるようになってきました。皆さんおいしい米の品種をよく知っていますね。



三浦善市さん（茂平沢）

12歳から米づくり60年

「減農薬栽培にこだわった米は、自分がパソコンで作ったラベルを貼って出荷しています」



泉亭町長

量を求めると味がついて来ないので、化学肥料も制限した米作りをしています。

今は息子中心で米や花を生産していますが、水田管理は私の仕事です。泉亭町長

今、三浦さんが考えておられることはどんなことですか。

三浦さん

せっかく美味しい米を作れるようになったのだし、これは私の人生そのものなのだから、一人でも多くの人に食べてもらいたい気持ちです。

平成6年から始めた個人への米の販売は、20軒くらいになりました。そのほとんどが子どもや孫の家の分までも買っています。

泉亭町長

子どもの頃の辛かった思いから、努力を続けているのですね。

吉成さんはいろいろな種類の作物を作られていると思いますが、どのような苦労がありましたか。

吉成さん

三浦さんには及びませんが、農業を続けて30年になりました。

平成8年から開設の無人直売所は



対談会場：緑町 鹿野さん邸



吉成賢二さん（金沢）

農業生産者 直売所で花や野菜販売の先駆け

「今は30~40種くらいだけど、百姓だから百種類の品目を作ってみたいですね」

雪溶けから降雪までの間やっています。いろいろとお客さんのことを考えながら続けています。

お盆の花が売れる時期には菊を出していますが、菊だけでも何十種類もあるんですよ。

泉亭町長

一軒の農家でとても多くの種類をつくっているのですね。

吉成さんは花も野菜も作っておられるのでたいへん忙しいと思いますが、今後の目標は何ですか。

吉成さん

今は自分の他に3~4人の人の作物も委託販売をやっていますが、多くの仲間と活動できるような場が出



近藤英男^{さん}（太美東）
趣味で始めた俳画、短歌はグループの指導をする腕前
「当別の花や野菜を題材にした作品も作ります」



鹿野正子^{さん}（緑町）
裏千家茶道教授 北海道医療大学の学生の部活動でも指導
「日本の伝統文化を未来につないでいけると良いですね」



山岸友子^{さん}（当別太）
共同で野菜を出荷する傍ら、味噌、漬物などの加工品づくりも評判「直売施設が当別にあると、直売に参加する農家が増えると思いますね」

来るといいですね。大勢で直売所をすることによって品数が増えたとお客さんも喜ぶと思います。

泉亭町長
当別で現在どれくらいの種類の作物が作られているのかを調査したら186種類もあり、それだけあれば多くの加工品が作れると思いました。

山岸さんもいろいろ加工品を作っていると聴きますが。

山岸さん

大豆で自家製味噌を作ったり、その味噌で南蛮味噌をつくったり、漬物は25種類くらい作ります。人にあげるのが殆どで、皆さんに喜ばれていますよ。

泉亭町長

町外への野菜の出荷にも積極的に取り組まれていますね、当別でも販売してみたいと思いませんか。

山岸さん

最初8人で始めた野菜の生産グループの仲間が今は17名に増えました。大体40~50種類くらいを栽培しています。トマトは化学肥料を使わない「エコファーマー」を取って生産しています。

運送経費もかかるので、地元で野菜や加工品を販売できるような場所ができるといいですね。

泉亭町長

直売施設には農家の「心」を感じられるものも多いですが、近藤さんはその「心」を直接歌や絵にさせていらっしやいますね。

近藤さん

趣味で始めた絵や短歌ですが、農協を定年退職してからも、農業・農村風景が好きなので、農家の人たちといろいろと関わりを持ち、創作に活かしています。

短歌の会が20人くらい、絵の会が10人くらいで、農家の方も多いのですが、夏場は忙しいので冬に活動される方が多いです。

花の生産農家はきれいな花を見ながら仕事ができるので、うらやましいと思います。これからも当別にあるこれらを素材として絵を描き、歌

を詠んでいきたいと思います。

泉亭町長

これからいろいろな活動を通じて「農」の魅力を発信してください。

鹿野さんは永く続けている茶の世界で「食」を考えることはありますか。

また、北海道医療大学の生徒にも部活で指導されているのですね。

鹿野さん

茶道を通して学生の礼儀がとても立派になられて、例えば就職の面接などでも高い評価をいただいていると伺い、とても嬉しく思います。

茶道でも食は強く意識しています。和菓子は小麦粉と小豆が主体でカロリーも少なく、若い人にも人気があります。季節感も大切で、夏にはイチゴ、秋にはかぼちゃなどで作ったお菓子も使われます。

よく花やイチゴを買っていた無人の直売所が吉成さんの所と今日初めて知りました。山岸さんの作ったものも食べてみたいですね。

地道に活動を続けている方たちのことを、町の人たちがもっと知るようになるの良いですね。

泉亭町長

皆さん方の地道でこだわりを持った仕事や活動が文化として根付かせ、当別をより魅力あるまちに行きたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。